

訪問リハビリ奮闘記

みんなの訪問リハビリになるために

医療法人啓仁会
所沢ロイヤル病院 訪問リハビリテーション室 加藤 範子

「どろ(ロイヤルマーク)の車に乗った人」と訪問車をひとくりにされその存在がなにもなのかばかりいって理解されておらず、「訪問リハビリテーション」というものがあるということも良く知られていませんでした。

事業開始当初、地域・在宅という大きなカテゴリーの中、「訪問リハビリテーション」という分野は、われわれ療法士の中では知られていないもの、ケアマネジャーや、地元の開業医の先生方、ましてや、利用者にとつての知名度はほとんど無いに等しい状況でした。当時は退院する際のカンファレンスにおいても、ケアプランの中に、訪問リハビリを入れるより、生活援助重視」ということを当たり前のように言われ、「自宅よりリハビリ」の必要性を検討されることも少なく、退院直後からの導入はほほほに等しい状況でした。

それは、病院、施設でのリハビリ、いわゆる機能向上を重視した「訓練リハビリ」のイメージが強く、自宅においても入院の訓練そのままを継続することが訪問リハビリと思われており、「入院時のようなたいへんな訓練はもうしたくない」という思いや、「訓練だけにお金を



訪問リハビリ一同 頑張ってます！

払うなら、少しでもヘルパーを入れて家族を楽にさせよう」という思いが圧倒的であったからに思われました。また訪問マッサージと混同されている事も多かったように思われ、その影響もあり訓練の依頼は少なかつたように思われました。

そんな中、私たちは、そんな思いや考えを変えてもらえるように、そして、病院の訓練のままをただ行うだけの、『宅配』ならぬ『宅配訓練』とならぬよう、実施と説明を繰り返しながらここまで来ました。

このように訪問リハビリを提供しながら、利用者の運動機能を維持することは当然のことながら、住み慣れた環境で生活していくためにどうしたらいいのかわからない本人や家族、そして在宅生活をサポートチームの一員としての立ち位置を少しずつ獲得してきました。

今振り返ってみると、天気だけでも色々な事がありました。豪雨や積雪、猛暑、雷、そして地震…。とくに昨年は地震後ガソリン不足もあり自転車での訪問も経験しました。この地震の際は自分達ですら今後どのように訪問を進めていくかの不安があるにもかかわらず、その気持ちを隠しつつ利用者の安否確認や家の中で恐怖を訴える利用者を励まし、計画停電と一緒に頭を悩ませるといったこともありました。

また最近では、医療保険での利用者も増えて、若年層の利用者や小児、そして、難病の方の依頼も増え、職業復帰への手伝いや学校入学後の学校生活の環境調整なども参加させてもらえるようになってきています。

こうした訪問リハビリの提供以外にも、本人への自主トレーニングの指導や、生活スタイルの提案、ご家族や、訪問ヘルパーさんへの介助方法の提案、訪問看護師さんへの簡単なリハビリ体操の伝達、そして、生活環境の提案など必要と思われるところには足を運び積極的にチームに参加しました。そして、時には利用者

の利用しているデイサービスなどにも赴き、生活の内容を伝え、なるべく生活全般が無理なく過ごせるよう調整を行えるような環境を整えることも行ってきました。

その甲斐あってか、最近では多方面で必要性を感じていただき、以前のような後回しの扱いから、どうしてもサービスに組み入れたいが、点数的にも日程的にもなんとかならないか…とお声をかけ相談をもちかけていただけるようになってきています。また、地域の開業医の先生方にも、直接お声をかけていただけるようになってきており利用者の方に、「リハビリの人と相談してみよう」と言われたとわれわれの存在を認識していただけていることを感じながら仕事ができるようになってきたのは本当につれい事だと思っています。

更には、包括支援センターとのコラボレーション事業である、『体操教室』や『ウォーキング教室』なども開催し、地域の方との交流をしながら体力維持の方法や、安全で楽しい運動の方法などを提案させてもらうことも行わせていただきました。この事業への協力は、近隣にどのような方が生活し、どのような事を考えるか、どのような医療を望んでいるのかを知るきっかけにもなり、病院の広報活動もさることながらわれわれの今後の動き方を考えるための良い情報収集ができたと思っており、より近隣の地域の方を身近に感じられるようになりました。また、これらの活動は大久保院長の今年度方針にも掲げられ、院内の広報委員会がこれらの活動をバックアップするなど、自分達の活躍できる機会や範囲がさらに広がってきていると思えるようになってきました。

そうした訪問を行ながら自分たちの立場を獲得し、今では開始当初に比べ地域に浸透し、訪問依頼も増えてきています。気が付けば訪問リハビリ室を立ち上げて3年が経過し、訪問件数も延べ12407件(5月31日現在)となりました。

そんな今でも、本来の目的が行えず「揉んでくればいいから」と言われることもあり、さすが、そんな光景に苦笑しながらもまずは、開始しながら徐々に心を開いていただけるよう、またご家族のストレス解消の役割を果たせるようになればと、心がけつつ訪問しています。そんなわれわれの様子はきつと病院スタッフからは滑稽に見えるのかもしれませんが、「家族にのめりこみすぎている」「医療者としてはあるまじき」と叱責されたこともあります。それでも利用者や介護者の生の声をいつも体感し、その現場で起こっている利用者やそれを支える家族の苦勞を少しでも和らげられるよう、

そして利用者の人生が輝くことができるよう、医療と福祉のちょうど中間の立場にいる私たち療法士だからこそできることをしていきたいと思っています。

こんな私たちですが、何か皆さまの力になれることがあるかもしれません。是非ともお気軽にご相談ください。

●訪問リハビリに関するお問合せ等ございましたら、お気軽に左記までご連絡ください。

所沢ロイヤル病院内
訪問リハビリテーション室
電話 04-2949-3385
(内線番号312)

社会福祉法人栄光会 ケアハウス ロイヤルの園

村治奏一ミニコンサート
6月5日にクラシックギターリストの「村治奏一さん」のミニコンサートがケアハウス ロイヤルの園7階集客室で開催され、入居者37名と特養の方が参加されました。

村治さんは日本を代表するトップギターリストで、お姉さんは同じギターリストの村治佳織さんです。現在、村治奏一さんは数々の名演奏家とも競演し、ニューヨークと日本を拠点に世界的に演奏活動中です。その一方、地域の病院・福祉施設・高齢者施設等での演奏など、社会的な活動も積極的にに行い、幅広い世代からの支持を集めてあります。

当日は、ギターで奏でる名曲を中心に、ジャズやタンゴなど演奏されました。途中トークや質問コーナーなど村治さんとの交流もあり、1時間程のコンサートでしたが、内容の濃いコンサートになりました。

音色に心地良い時間を過ごせたいと思います。世界中で活躍されるアーティストの演奏を間近に聞く事が出来たのは貴重な体験でした。

10月20日には、所沢市民文化センター「ミューズ」アークホールで東京交響楽団と小林沙羅さん(ソプラノ歌手)の競演でコンサートが開催されます。世界を駆ける若い才能の競演に是非足を運ばれては如何でしょうか。介護職員 夏目 久美子

